

# 地域資源循環型養殖技術を確立し 身入りや色調均一な「浜中養殖うに」をGI登録

## 浜中水産物振興協議会(浜中町)



浜中養殖うに



農林水産大臣登録第135号

### 【組織等の概要】

- 組織名: 浜中水産物振興協議会
- 所在地: 北海道厚岸郡浜中町湯沸445番地
- 代表者: 会長 上野 仁
- 養殖漁場: 浜中町内水面、浜中湾、琵琶瀬湾
- 構成機関: 浜中漁業協同組合、<sup>ちりっぶ</sup> 漁業協同組合、  
上記漁業協同組合の養殖うに部会、  
うに加工業者、浜中町

### ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 浜中町沿岸では昭和30年代から潜水によるうに漁業が行われており、昭和50年代には年間300tを超える水揚げ量を誇っていた。しかし、昭和60年代に入り、乱獲による水産資源の急速な減少により枯渇状態となり、昭和63年から資源増大対策として、人工的に種苗の放流を開始、漁場を管理しながら水産資源の回復を図ってきた。
- ◆ 増殖対策と並行して、水揚げの少ない冬期間の収入源確保や後継者対策を目的に、浜中町独自のうに完全養殖に向けた挑戦を開始した。昭和63年に、散布漁業協同組合が稚うにの中間育成で大きな成果を収め、生育環境調査を経て、平成4年から火散布沼でうに完全養殖の試験を重ねた結果、平成7年3月、養殖うにの築地市場への初出荷を果たした。
- ◆ 浜中漁業協同組合も、平成13年から養殖試験事業に着手し、2年後の平成15年に「浜中産養殖うに」として初出荷を実現したことで、2つの漁協及び関係者で協議会を設立し、「浜中養殖うに」としてブランド名を統一した。
- ◆ 浜中養殖うにの評価が高まることで模倣品の排除や取引の増大、担い手の確保、生産体制の強化など、経済活性化につながる効果もあることから、令和3年3月、国の地理的表示(GI)保護制度に申請し、令和5年7月20日、北海道内8番目、釧路・根室管内では初となるGI保護制度に登録された。

### 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 養殖を開始した当初は、へい死が何度も発生し身入りや色調も良くなかった。

⇒ 養殖場の環境モニタリング調査や餌料価値の検証等を行ったうえで、施設係留方法や飼育水深の調整、海流等を考慮した給餌しやすい養殖カゴの考案等を行ってきたほか、飼料として最も効果がある海藻を特定するなど、うに養殖技術の実用化に取り組んだ。また、水産研究機関等と連携し、うにの身入りや品質の評価を行いながら、順調な生育と品質を維持するための技術を確立し、身入りや色調の均一な「浜中養殖うに」の生産を可能としている。

### 【取組の成果】

- 「浜中養殖うに」は、身色がオレンジ色に近い濃い黄色で、色や大きさがそろった養殖のエゾバフンウニ。クリーミーな口溶けに苦みや雑味のない濃厚な味わいが、市場等から高く評価された。
- GI登録以降、市場における取引価格が上昇したことにより、養殖うに漁業者の収入も増加した。
- 陸に流れ着いたこんぶを養殖うにに給餌することで、資源を無駄なく有効活用し、地域循環型の生産に繋がっている。
- こんぶ漁(漁期: 6~10月)以外に、水揚げの少ない冬期間は出稼ぎに行っていたが、高値で需要がある養殖うにの生産により、年間を通じた漁を可能とし、安定した収入が得られるようになったことが魅力となり、後継者も育っている。



こんぶを給餌の様子



養殖かごの中で飼養されるうに

### ◇【地域ならではの特色】

周辺にはこんぶ類が豊富に生息し、波浪の影響を受けにくい湾や海水交流のある静穏な湖沼など養殖に適した自然環境を有しており、これらの条件を生かした独自の地域資源循環型養殖技術を確立。飼料価値の高いこんぶ類を十分に給餌することで、身入り等が均一で食味の良いうにの生産が可能。

### 【今後の展望】

- 自然環境の影響を受けやすいことから、常に水温や塩分のモニタリングを行い、うにの品質管理や養殖技術によりブランド力を低下させることなく、質の高い安定した生産を持続する。
- ブランド強化、ビジネスの拡大、所得や地域活力の向上のため、心配される輸送中の品質低下などの課題クリアを目指し、海外への輸出を模索する。